

絆

人と人との深い絆はお互いの信頼と共に築かれ心も平穏になります 又その絆が強固であればどんな困難にも立ち向かう勇気も与えてくれます

北館神社には主君と家臣の立場を超えた深い絆により厳しい困難を乗り越え大成を遂げたお話をあります

今から四百年以上昔の西暦一六〇〇年に天下分け目の関ヶ原の戦いがあり時を同じくして山形の長谷堂でも徳川方の最上義光と豊臣方の上杉景勝が戦い徳川方の勝利となりました その為翌年にはこれまで上杉藩の所領であった庄内立川地区の守りを藩主最上義光（義光公）の命により家臣北館大学助利長（大学公）が着任しました 大学公はこの事を大変有難く思い何よりも藩主を敬愛し又領地領民の事を考えておりました そしていつ戦があつてもすぐに出陣できるようにと武具の常時点検と有事の時の備蓄を怠りませんでした この事が義光公の目に留まり信頼されていつたといわれております それから度々交流を重ねていく中でお互いの人を大事にする思いやりのあら人柄に惹かれあつていつたのです 人は身分の上下の前に人間同士の心の闊りを大切に考えます そして人は一人では生きられない助け合ふことによってお互いが生かされていいるということに気付くのです 大学公は義光公とのその強い信頼の下に絆を深めていきました そして貧困にあえぐ領民を何とか救いたいと思い広大な荒地に水路を引くことを考え大規模な難工事を覚悟の上に自分の命と引き換えに義光公に進言したのです 義光公は大学公の領民を大切に思う心と大学公の進言であれば周到に工事を為せるであろうということこれまでの信頼関係に基づき工事着工を決断されたのです そして工事に關わる一切の労役と金銭も思うように使つて構わないとのお達しでありました 大学公も義光公の懐の深さに感服致し工事完成を誓つたのです 義光公にそ今まで言わしめた事こそその絆の深さに相違ありません 心が折れ切腹を決意するほどの難工事ではありましたが見事に乗り越え完成となり領民達は歓喜の涙にくれたという事です 堀流域には次々と領民が移り住み新しい村々が多数出来ました 田畠も多くなり この大堀は庄内地方の発展と米どころ庄内平野の礎となつたのです その後領民達は豊かな暮らしができるようになり感謝の心で大学公を水の神様として祀つたのであります そして現在も北楯大堀として皆様に命の水をお届けしているのです

人と人との深い絆は大きな力となつてお互いの信頼は思いやりとなり世界平和に繋がつていくことでしょう